



H03076 内藤友彰  
指導教員 岩倉成志

## 1. 目的と背景

東京都は第2次世界大戦の影響で甚大な被害を受けた。都の面積の約30%が焼失し、住宅数も戦前と比べて半数以下となった。さらに深刻な食糧難、伝染病の流行、財政難など、終戦を迎えたものの都が抱える問題は山積みであった。都はこの状況を改善するために様々な事業を展開して対策にあたった。その結果、都は戦災から立ち直っていくことができた。

その一方で、地域住民の中にも自発的に戦災から立ち直るために自治活動を行う姿があったと言われている。戦災からの復興を考える上で、このような人々の自治活動は無視できないものだと考える。これは、応急住宅の建設や瓦礫処理などの事業のように、都の力だけでは対応しきれず、人々の努力に頼るしかない事業もあったからだ。しかし、人々が行った自治活動に関する資料の現存数が少なく、残された資料も具体性に欠けているものが多い。

そこで本研究では戦後混乱期において、人々が行った自治活動を明らかにするために当時を知る方にインタビュー調査を行った。

調査対象時期は1945～1950年までの戦後混乱期とした。調査対象地域は、戦争により区の面積の半分以上を罹災した旧日本橋区とした。当時の日本橋の罹災状況を図1に示す。

## 2. 調査方法

戦後混乱期に行われた自治活動について明らかにするためにインタビュー調査を実施した。対象年齢層は約70歳以上の高齢者の方とした。道行く方々に声をかけてインタビューを行った。また、老舗や神社、敬老館などでも調査を行った。イン



図1. 旧日本橋区の罹災状況

表1. 文献調査からわかった日本橋の自治活動

町名	自治活動
人形町	バラック住宅の建設 瓦礫処理 疎開住民の勧誘
馬喰町	バラック住宅の建設 瓦礫処理
日本橋	瓦礫処理 夜警 仮設遊び場の設置 防災対策 福祉増進 伝染病の防止対策
蛸殻町	街路灯の設置と管理 自警運動 防火運動 児童教育

タビュー内容は年齢、仕事、町名、罹災状況・周辺環境、自治会の復興支援、周囲での行われた復興活動、行政の活動について伺った。インタビュー調査は1月上旬～中旬にかけて行った。

## 3. 文献による戦後混乱期の自治活動の調査

戦後混乱期において、人々がどのような自治活動を行ったかを文献資料によって調査した。

日本橋では、表 1.のような自治活動が行われたことがわかった。

しかし、活動内容に関する記述が具体性に欠けるものが多かった。例えば、瓦礫の処理に関しては「瓦礫処理を行った」程度の記述しかなく、誰がどの程度の瓦礫を処理したのかというような具体的な記述が記されていない。その他の活動に関しても類似の記述内容となっていた。

#### 4.インタビュー調査の結果と考察

ヒアリング調査の結果、行政が行った活動についての質問では、「行政が復興支援を行った様子はなかった」との回答が得られた。戦後混乱期の東京都は、全体的に住宅供給が追い付かず、住宅に関しては民間の手で復興せざるを得なかった。また、日本橋は財政難により瓦礫処理事業が一時中断するなど大変な地域だった。そのために行政の目立った活動が見られなかった可能性もある。

地域住民が行った自治活動に関する質問には共通して「生きることに精いっぱいであり復興支援をする余裕がなかった」との回答が多かった。

一方で、自治会の活動に関して、人形町で組織された青年会の活動として夜警を行った話を伺うことができた。

また、周囲で復興支援を行っていた人についての質問では、茅場町において町内の瓦礫の処理、バラック住宅の建設を行った話を伺うことができた。箱崎町では、防空壕を埋める活動が行われた。これらの活動は個人単位で行われたものであった。

今回の調査結果から、多くの人が生きることに必死であり、戦後混乱期において自治活動をする余裕がなかったといえる。その一方で、自治活動を行う人々もおり、地域社会に貢献していた。このような人々の活動の中には戦災から立ち直るために行われたものもあった。日本橋が戦災から立ち直ったのは、このような人たちの活動が影響しているといえる。

表 2. インタビュー結果

質問	町名	回答	町内状況
自治会の活動	人形町	女性の多い地域だったので女性を狙った犯罪を警戒し、青年会で毎日夜景を行った	被害なし
	箱崎町	生きることに精いっぱい余裕がなかった	半分焼失
	箱崎町	周囲で自治会活動をしている様子はない	半分焼失
	茅場町	自治会が活動を行っている様子はなかった	焼失
	蛸殻町	戦時中あった自治会活動が戦後なくなった	被害なし
周囲の活動	茅場町	資金・資材が不足する中、バラックを建設	焼失
	茅場町	町内の瓦礫処理を個人個人が行った	焼失
	箱崎町	誰彼となく防空壕を埋めた	半分焼失
	浜町	周囲で活動を行っている人はいなかった	焼失
	蛸殻町	焼失しなかったのを見かけなかった	被害なし
	浜町	新田新作の活動に明治座が復興した	全焼
	人形町	自分の町内以外を見る余裕がなかった	被害なし
箱崎町	周囲で活動を行っている人をみなかった	半分焼失	
行政の活動	茅場町	周囲で行政の復興支援はなかった	焼失
	人形町	行政が復興支援を行っていない	被害なし
	箱崎町	行政が復興事業を行っている様子はない	半分焼失
	蛸殻町	周囲で行政が活動している様子はなかった	被害なし

#### 5.まとめ

本研究では戦後混乱期の日本橋に住む人々の自治活動について明らかにするためにインタビュー調査を行った。だが、戦後約 60 年とあり、当時を知る方が少ない現状の中で思うようにインタビュー数を集めることができなかった。

一方、人形町や茅場町において得られた証言は、戦後混乱期の自治活動を明らかにするための 1 つの資料になるだろう。今後、このような証言を増やすことが課題である。

謝辞：お忙しい中、インタビュー調査に協力してくれた方、親切にアドバイスをしてくれた方に謝辞を示す。